

松谷会長記者会見の概要

日 時：令和3年9月13日（月）15時00分～15時25分

場 所：（オンライン記者会見）

記者：

3点伺いたい。1点目は、公募投信の資金流入額（4,741億円）は、昨年10月（4,413億円）以来の低水準であったと思うが、この背景について伺いたい。2点目は、8ヵ月ぶりに上場投資信託（ETF）が149億円の資金流出となっているが、この要因について伺いたい。3点目は、東証の取引時間延長に関して、30分の延長が検討されているが、投資信託の基準価額の算出が遅れるという問題がある。協会として、どのような意見を持っているか。

市倉統計情報部長：

1点目のご質問であるが、公募投信の資金流入額が鈍化したのは、ETFが8ヵ月ぶりに流出超過になったこと、また、ETFを除く株式投信の純資金流入額が鈍化したことが要因である。国内株式型は880億円の純資金流出であったが、ETFを除くと14億円の純資金流入である。7月は1,092億円の流入超過であったが、7月よりも資金流入額が約1,000億円減少しており、また、海外株式型は約600億円、内外株式型は約760億円、7月よりも流入額が減少している。2点目のご質問であるが、ETFが8ヵ月ぶりに流出超過となった背景には、要因は特定できていないが、裁定取引などによる機関投資家の売り需要があったのではないかと想定される。

松谷会長：

1点目、2点目のご質問の件については、資金動向に変動はあったものの、トレンドに大きな変化はないと理解している。3点目のご質問の東証の延伸問題については、本会としても東証の市場機能強化を前提とするワーキンググループに参加しており、終盤の議論にさしかかっている。市場機能の強化に資するものであれば、本会としても、取引時間の延長も含めて積極的に協力していきたいと思う。

記者：

ETFに関して、8月は日銀の買入れはあったのか。

市倉統計情報部長：

8月は日銀の買入れはなかった。

記者：

ファンド本数について伺いたい。8月の新規設定本数は特殊要因で増加したとのことであるが、全体としては「投資信託の主要統計等ファクトブック」の「7. 契約型公募投信の新規設定・償還・運用中ファンドの本数」を見ると、ファンド本数が減っている傾向が続いて

いるように思われる。この背景についてはどのように見ているか。また、業界にとって歓迎すべき方向と考えているか。

松谷会長：

8月の新規設定本数は64本となっているが、これはファンドラップ・シリーズの新規設定による本数の増加が主たる要因である。とは言え、償還本数は増加傾向にあるものの、ファンド数は約6,000本と依然多い状況だ。本会としては、より効率的な運用ができるよう、償還や併合を随時進めていくことを議論している。併合は様々な課題を抱えている状況ではあるが、償還については各社で対応が進められており、今後も増加していくのではないかと期待している。

松谷会長：

8月は、先程申し上げたように大きなトレンドは変わってはいないが、ETFを除く公募株式投信の純資産総額は70兆円台に乗せたあと、最近はステージが変わり、80兆円台となっていることは評価して良いと思う。また、その結果として、投資信託を長期的に保有されている受益者の多くの方が成果を享受されていることと思う。

ETFを除く公募株式投信の純資産総額が70兆円台に乗せるまで、かなりの期間を要した。80兆円台からは時間をかけずに、90兆円、100兆円に向けて、長期・積立・分散投資を推進し、家計の長期的な資産形成に向けた動きを一層促していければと思っている。

以 上